

とぴあ



多職種連携を通じて
その方の生活に寄り添いながら、
「一日一笑」の思いで支えていく。

祖父の在宅介護がきっかけで介護職の道に進むことを決め、当院に入職しました。入職後は介護老人保健施設(老健)に配属された後、通所リハビリテーション事業所、病院の回復期リハビリテーション病棟、介護事業所などを経て、現在は再び通所リハビリテーション事業所で勤めています。2023年に勤続25年を迎え、今は介護士の専門部署であるMS(Medical Service)部の係長を務めていますが、今日の私があるのもこれまで先輩や仲間が支えてくれたおかげです。また、多様な部署を経験したからこそ、利用者

さんやご家族さんに対して、様々なサポートができると思っています。MS部は多職種連携を図りながら、利用者さんの自立支援や安心安全な環境づくり、人材育成などに力を入れており、それらの活動をする上で最も重要になるのが、MS部の共通理念「目配り・気配り・心配り」です。常に利用者さんの行動に注意を向け、安全を確保し、相手の心に寄り添って接することを大切にしており、この考え方がスタッフに根づいていることで、利用者さんの理想的な暮らしをサポートできると思っています。さらに、私個人として利用者が一笑いもせずに帰ってしまうのは申し訳ないという気持ちがあるため、「一日一笑」をモットーに、これからも利用者さんに笑顔と安心を届けていきたいと思っています。

「OPEN CARE PROJECT AWARD 2023」に

MS部職員2名
嘉成光生・後藤あゆみが
入賞しました



介護を「個人の課題」から
「みんなの話題」へ。
OPEN CARE
PROJECT AWARD 2023

OPEN CARE PROJECT AWARD 2023
経済産業省が主催。介護を「個人の課題」から「みんなの話題」にするため、エピソードや事例を通じて、よりポジティブな切り口で、介護を取り上げ、社会における露出を上げていくとともに、介護の実態を可視化することで、異業種含めて介護をめぐる課題を解決していくことを目指した賞。

嘉成光生

コメント
私が投稿したエピソードは、利用者さんから「もう死にたいわ」と言われたことを、その言葉をおっしゃった気持ちの裏側を自分なりに読み取り、考えたものでした。そこには「寂しい」「悲しい」「申し訳ない」「楽しくない」という思いがあり、さらに「火として、何かしらの生きがいを求めて生きていたい」という意味があると感じています。この気持ちを、ずっと忘れずに利用者さんと向き合っています。



後藤あゆみ

コメント
入賞したエピソードのタイトルは「これ私?」。介護の楽しさや達成感を得られた思い出です。コロナ禍で外出が難しかった時期に、美容師による、これまでのカットだけでなく、カラーやパーマができる企画に参加して下さった利用者さんが、鏡で自分の姿を見て言われた言葉でした。改めてこのエピソードを思い起こし、利用者さんが自分らしく過ごすことの大切さ考えることができました。



MS部は、どのような部署？

MS (Medical Service) 部は、1994年に介護士だけの専門部署として創設され今年で30周年を迎えました。介護士が独立した部署として病院や介護施設グループに存在しているのは全国的にも珍しいですが、富田浜病院グループでは介護の専門性を高め教育システムを構築することで、患者さんや利用者さんに高い水準の介護を提供しようという思いで立ち上げました。

MS部が働く場所は？

施設系

- ・病棟
- ・老人保健施設
- ・特別養護老人ホーム

在宅系

- ・デイケア
- ・デイサービス
- ・サービス付き高齢者向け住宅



MS部の役割とは？



利用者さん本位を重視した自立支援

MS部として最も大切にしているのは、「その方らしい生活を支援すること」です。治療ではなく、生活の視点から、ご本人の要望や、自己決定を尊重して生活できる介護を行っています。

心地よく過ごすための身体ケア

三大介護と言われる「食事」「入浴」「排泄」の介助がケアの中心です。その方の身体的特徴に合わせて様々な配慮をしながら行うほか、ご家族さんがご自宅でケアをされる際のアドバイスもしています。

他職種へのニーズの代弁者

富田浜病院グループでは、多職種連携を進め、お一人お一人の患者さん、利用者さんに多くの職種が関わります。その中で介護士は、ご本人に寄り添い、その思いを伝えることを大切にしています。

創設30年を迎えたMS部の職員たちが、日々のなかで心掛けていることとは？

介護士ならではの目線で、「その方らしい」入院・入所生活が安心して送っていただけるよう、患者さんや入所者さんと向き合っています。

介護をするうえで心掛けているのは、入居者さんに寄り添いながら、ケアを通じて信頼関係を築き、ともに笑顔で過ごすことです。



高木 友貴

自分のユニットは平均要介護度が高いため、メンバーや他職種と連携しながら、ユニットの生活状況に注意を向けています。



荒井 元規

オフの時間に自分の心と体をリフレッシュして、仕事では笑顔と元気で患者さんに接することを心掛けています。



伊藤 裕子

利用者さんの安全を守ることです。常に「かもしれない」という危険予測を忘れずに、小さなことにも意識を向けるようにしています。



井上 眞美

患者さんが日々の生活を楽しく過ごせるように、しっかりと顔をあわせて、明るく笑顔で挨拶することを心掛けています。



今井 翔太

利用者さんとともに楽しく過ごすことを大切にしています。思いやりを持って行動し、利用者さんとの関係を築いていきたいです。



岡本 華子

どんなに忙しい時でも笑顔で会話するようにしています。患者さんの「楽しく過ごせて良かった」という言葉に活力をもらえました。



小倉 美幸

相手の気持ちを想像することです。「自分ができなくても高齢の方には難しいのではないかな」などを考えて行動しています。



川村 喜久代

挨拶と言葉遣いを意識しています。当たり前のことかもしれませんが、コミュニケーションの基本だと思うので大切にしたいです。



塩原 健太郎

入浴を終えた方の腕と足がきちんと上がっているか、車椅子を動かすときに服や荷物がタイヤに当たっていないかなどを確認しています。



間崎 歩美

相手への思いやりを意識しています。入居されている方だけでなく職員のことにも考え、適切なケア・業務を行うように努めています。



水嶋 将太

一人の人間として思いやりを持って接するように心掛けています。丁寧な言葉遣いを意識して気持ちのいい介護を提供したいです。



水野 陽美

感謝の気持ちを忘れずに取り組むことです。感謝の気持ちを持つとポジティブになり、仕事も楽しく取り組めるからです。



村越 加奈

介助に入った際に「あなたでよかった」と、すべての方から思ってもらえるように、利用者さんが安心できる介護を心がけています。



森本 順

相手の気持ちを考えて行動するように心掛けています。まだ完璧ではありませんが、誰に対しても気配りできるようになりたいです。



家倉 麻里

カーテンを開けるときの明るく声をかけるようにしています。清掃では汚れがないか隅々まで点検することを大切にしています。



柳川 秀美